

アスリートの競技力向上に向けた取組について

1. 第73回国民体育大会「福井しあわせ元気国体」の結果について

(1) 結果概要

- 大会開催期日 平成30年9月29日(土)～10月9日(火)
 [会期前:9月9日(日)～17日(月)・25日(火)～28日(金)]
- 今大会の成績 ※ ()内は平成29年愛媛国体の成績
男女総合(天皇杯)成績 31位 854.5点 (39位 803.5点) (資料1)
女子総合(皇后杯)成績 35位 471.5点 (42位 442点)
- 今大会の評価と課題

評価できる点	課題となる点
<ul style="list-style-type: none"> ・カヌー競技などの個人競技の活躍により近畿ブロック大会突破数が昨年の33種別から44種別と増加した。(資料2) ・ホッケー競技において少年男子が1位、成年男子、少年女子がともに3位に入賞する活躍をみせた。 ・昨年不振であった少年種別が今大会では成績を伸ばすことができた。(資料3、10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人競技の活躍に比べ、バドミントン競技などの3倍競技、バレーボール競技などの5倍競技の入賞数が昨年より減少した。(資料5) ・ソフトボール競技や競泳競技などで入賞を逃したため、成年種別の獲得得点が伸びなかった。特に成年女子は、過去10年で最低の得点であった。(資料6)

(2) 今後の対応

◎目標 充実期(H29～H32)の目標10位台、1200点

- 安定的に得点を獲得できる競技の競技力維持とさらなる向上
 ホッケー競技のように安定して得点を獲得できる競技の発掘・育成が必要。ボート競技のように今大会成績が振るわなかった競技については、しっかりと現状分析を行い、強化方策を見直すなど立て直しを図る。
- 獲得得点の大きい団体種目の強化
 バドミントン競技などの3倍競技、バレーボール競技などの5倍競技の入賞数の減少により、天皇杯得点が伸びなかったことから、獲得得点の大きい競技を強化し、総合成績の向上を目指す。特に成年種別は企業チームと連携しながら強化方策の見直しを図る。
- 就職支援システムによる成年種別の選手確保
 競技力の高い選手が、スポーツに理解のある県内企業に就職ができるようマッチングを行い、成年種別全体の競技力向上を図る。
- 少年種別のさらなる強化とターゲットエイジへの継続的な取組
 2024年の国スポで少年種別の中心となるターゲットエイジ(現小3～小6)が、来年度は中学校に進学することから、中学校と連携した強化の取組が必要。2019年度に31校30競技80部に拡大する強化拠点校重点強化事業を中心とした少年種別強化に継続して取り組む。

2. 第18回全国障害者スポーツ大会「福井しあわせ元気大会」の結果について

(1) 結果概要

- 大会開催期日 平成30年10月13日(土)～15日(月)
 今大会の成績 出場種目数 11種目
 金メダル14個 銀メダル18個 銅メダル9個 計41個
 大会新記録4 自己新記録22
 メダル数および記録の推移

大会	出場種目数	出場者数	メダル数				大会新記録	自己新記録
			金	銀	銅	計		
H30 福井県	11	39	14	18	9	41	4	22
H29 愛媛県	11	42	19	8	8	35	3	9
H28 岩手県	10	27	16	14	5	35	3	11

- 出場者内訳 (※個人競技の選手枠は、主催者から指定される)

競技名		H30 福井県	H29 愛媛県	H28 岩手県
個人	陸上	11	12	10
	水泳	3	3	4
	卓球	4	4	4
	フライングディスク	5	5	5
	アーチェリー	1	1	2
	ボウリング	2	2	2
団体	ソフトボール	13	15	0
合計		39	42	27

- 今大会の評価と課題

評価できる点	課題となる点
<ul style="list-style-type: none"> メダル獲得数、大会新記録数、自己新記録数ともに前年を上回ることができた。 団体競技においてソフトボール競技が前年に引き続き近畿地区予選会を勝ち抜き本大会に出場できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国障害者スポーツ大会に新たに出場する団体競技チームの育成が必要。


(2) 今後の対応


◎目標 充実期 (H29～H32) の目標 全国障害者スポーツ大会出場種目数 (個人・団体) 12種目

- 団体競技チームの選手発掘と育成

知的障害者のバレーボール競技などチーム作りが遅れている種目の選手発掘と育成に努めるため、県内大学や特別支援学校、地域総合型スポーツクラブとの連携を強化する。

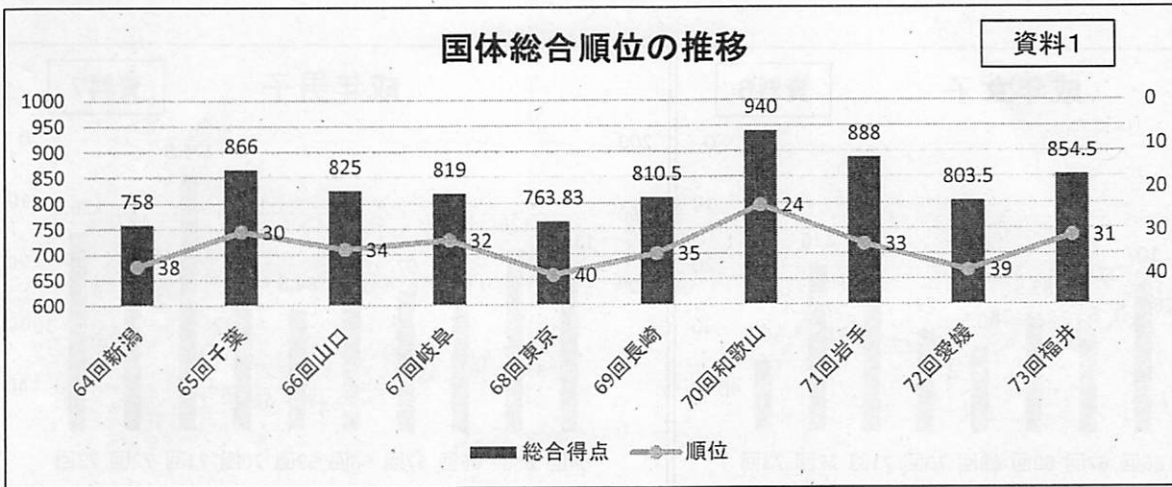
3. 県立施設を拠点としたアスリートの競技力向上に向けた取り組みについて

県立琵琶湖漕艇場	BIWAKOボート・カヌーアカデミー
<p>県立琵琶湖漕艇場では県競技力向上対策本部の事業として、BIWAKOボート・カヌーアカデミーを開催しています。</p> <p>小学生や学校にボート部がない中学生などを対象に、ボート協会やカヌー協会の協力を得て、アスリートを目指す選手90人の育成、強化を実施しています。</p> <p>アカデミーから第38回全日本中学漕艇選手権のシングルスカルで優勝する選手が出ており、今後の活躍が期待されます。</p>	

ウカルちゃんアリーナ	ジュニア強化バドミントンスクール
<p>ウカルちゃんアリーナでは、県バドミントン協会の協力を得て、小学1年生から中学3年生を対象に国際大会や2巡目国スポで活躍できる選手の育成、強化を目的にバドミントンスクールを開催しています。</p> <p>垣岩令佳選手(再春館製薬所)、早川賢一選手、数野健太選手(元日本ユニシス)などの滋賀県出身のオリンピックに続く次世代アスリートが誕生することを期待しています。</p>	

新県立体育館	アスリート分野の教室開催等
<p>PFI方式により実施することとしている新県立体育館整備事業では、2022年度の開館に向け、現在、入札手続きを行っており、以下の事業を実施することを事業者に求めています。</p> <p>立地特性を活かし、大学をはじめとする周辺機関と連携しながら、幅広い年代・レベルのアスリートを対象として、トレーニング、栄養管理など、それぞれの関心やニーズに応じたアスリート分野の教室等を月1回以上開催することとしています。</p> <p>また、施設内には、トレーニング室・体力測定室を設置することとしており、近年の医・科学分野で得られた知見等を踏まえるとともに、民間のノウハウも活かしながら、より多くの競技者に対して、効果的・効率的なサービスを提供することとしています。</p>	

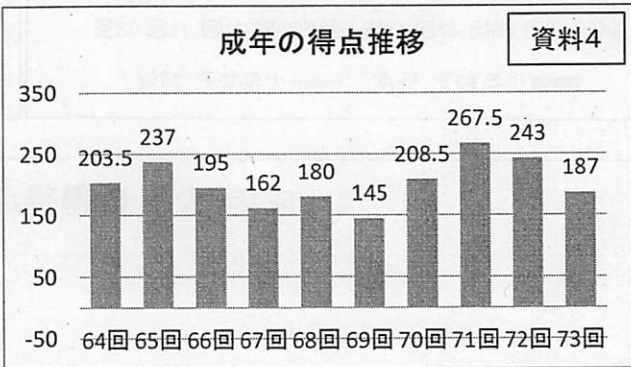
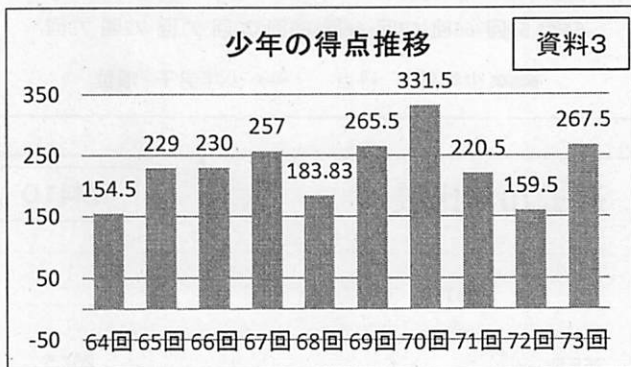
別添資料



資料2

近畿ブロック大会 得点別 突破数(過去10年)

種目数	主な競技名	64回	65回	66回	67回	68回	69回	70回	71回	72回	73回
		新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛	福井
		115	115	114	114	117	115	115	116	121	120
1倍競技	ライフル射撃、カヌー(シングル)	17	17	18	19	17	15	19	18	15	22
3倍競技	アーチェリー、バドミントン、弓道	15	13	18	14	12	17	18	12	7	13
5倍競技	バレーボール、バスケットボール	8	7	6	6	8	6	6	7	9	6
8倍競技	ホッケー、サッカー、ソフトボール	3	1	3	2	1	3	3	2	2	3
合計		43	38	45	41	38	41	46	39	33	44
突破率		37.4%	33.0%	39.5%	36.0%	32.5%	35.7%	40.0%	33.6%	27.3%	36.7%



資料5

第73回国民体育大会 得点分類別 入賞数(昨年比)

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	入賞数	昨年比
1倍競技	73回福井	4	3	6	4	12	5	6	6	46	16
	72回愛媛	3	5	2	1	8	6	4	1	30	
3倍競技	73回福井	1	1			2	2	3		9	-1
	72回愛媛	1	2	1	1	3			2	10	
5倍競技	73回福井							2	1	3	-3
	72回愛媛			1	1	1		2	1	6	
8倍競技	73回福井	1		2						3	2
	72回愛媛			1						1	

